

## 表現教育花伝舎倶楽部(ADEF) 幹事等プロフィール

<代表幹事>

### 嶽本あゆ美

劇作家・演出家、メメント C を主宰・劇団四季技術部、演出部を経てフリー脚本家に。日本劇作家協会新人戯曲賞、平成 26 年文化庁芸術祭優秀賞を受賞。代表作『ダム』『太平洋食堂』など。著書に「演劇に何ができるのか？」(共著 アルファ・ベータ・ブックス社)等。学校における表現教育には 2010 年度より参加し、東京都内のほか、静岡県、京都府などでも実践。新潟市秋葉区文化会館では、地域の鉄道の歴史に取材したミュージカル創作と地域住民による上演に 2019 年から取り組んでいる。星槎学園国際高等学校(立川)、桐朋学園芸術短期大学演劇専攻科、東京学芸大学付属特別支援学校(高等部音楽)などで非常勤講師を勤める。

<幹事>

### 石川健二

演技集団朗代表。舞台俳優。2009 年度より表現教育指導者としての活動を始める。俳優として平成 26 年度新進芸術家海外研修制度(短期研修・後期)に選出され、アルゼンチンへ演劇留学。また国際共同プロジェクトへ多数参加するなど、国内外にわたって児童演劇のジャンルで幅広く活動している。

### 千田恵子

劇団青年座文芸演出部所属。青年座公演や外部団体の脚本、演出、またラジオドラマの作・演出も務める。「みんなが書く戯曲のコンテスト」入選。主な作品『昭和の子供』(青年座)、『メアリー・スチュアート』(勝田演劇事務所)など。青年座研究所、日本工学院専門学校声優俳優科・演劇スタッフ科等で後進の育成に携わる。2009 年度より、学校における表現教育に参加する。

### 望月寛子

劇団ひまわり所属。全国の学校で児童青少年演劇を上演する等、舞台を中心に活動。保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得しており、劇団ひまわりで講師としても活躍中。現在は、学校でのワークショップや乳幼児対象のアートパフォーマンス作品にも参加。学校における表現教育には 2011 年度より参加。

### 安田カオル

東京都出身。劇団東京芸術座所属。演出、脚本、俳優、ワークショップファシリテーター。こどもたちから大人に向けた作品まで長年に渡り幅広いジャンルの演劇作品に携わる。学校における表現教育には 2010 年度より参加。以後、日本全国の小中学校や地域で数多くのワークショップを展開中。近年では、自身が構成・演出している「一人称童話」や「声色かけ合い活弁」など、舞台や

映像作品とリンクさせたワークショップデザインにも力を入れている。

### 八乙女真記子

青二プロダクション俳優養成所卒業。劇団『うるとら 2B 団』所属。主に舞台活動の他、朗読劇、司会、イベントのプロデュース、指導では学童、発達支援施設等で活動。幼児、小中高に向けて指導を行う。教育業界でのアルバイトをきっかけに、教育での困りごとが表現で解決できるのではと考える。その後『表現教育』に出会い、その世界に飛び込む。学校における指導では 2011 年より参加。1 人 1 人の個性を活かし、表現の幅や可能性を見出し、そのうえでの人との繋がりを日々大切にしている。

### 谷津かおり

株式会社オフィスエルアール 代表取締役。ドラマワークコーチに加え、俳優、演出家・劇作家としても活動。劇団テアトルエコー附属養成所卒業後、劇団主宰として活動。学校における表現教育には、2004 年度から参加。小中学校のみならず、演劇力の可能性を追求し、企業研修や大学・親子・異業種交流など幅広い対象に向けて演劇ワークを使ったコミュニケーション研修を実施する以外にも、心理学×脳科学×演劇で独自の願望実現 method を考案している。

### <監事>

#### ただじゅんや

横浜おやこ劇場事務局、民族歌舞団、劇団風の子関東をへて 2003 年独立。「ただじゅん企画」主宰。舞台実演家、演劇、和太鼓、和楽器演奏、語り、獅子舞など、子どもを対象とした舞台上演、また、劇団所属時代から表現あそびなどのワークショップを全国のおやこ劇場、保育園、小中学校、などで開催。保育士研修会なども多数。著書「心もからだもまるごと育てる表現あそび 12 か月」(黎明書房)。

### <アドバイザー>

#### 西田豊子

劇作家・演出家。NPO 法人アートイン Ashibina 理事長。児童青少年演劇の創作活動と共に、教育分野でも数多くの実践を積む。各地の公立文化施設による参加型演劇創作プロジェクトや文化庁「学校でのコミュニケーション能力育成事業」等々、「地域と人」の潜在的創造性を引き出す指導には定評がある。現在、文化庁・児演協の人材育成事業や武蔵野大学大学院、国立障害者リハビリテーション学院にて「コミュニケーションと芸術体験」特別講座を担当。

#### 米屋尚子

フリーの演劇ジャーナリストなどを経て 1996 年から 2020 年まで、日本芸能実演家団体協議会に勤務し、舞台芸術に関する調査研究、政策提言、研修などの事業に携わり、その一環で表現教育

指導者養成講座を担当。2010年から2012年、文部科学省・コミュニケーション教育推進会議委員を務めた。2023年より日本芸術文化振興会・プログラムオフィサー（文化施設担当）。著書に『改定2版 演劇は仕事になるのか?』、『学校という劇場から—演劇教育とワークショップ』（共著）など。